

# 1、事業報告書

平成28年度（平成28年4月1日から平成29年3月31日まで）

## (1) 農作物共済関係 (引 受)

区分	項目	組員	合数	引面	受積	引収	受量	共済金額	徴収共済掛金(A)	交付金又は納入保険料(B)	手持共済掛金(A)±(B)
	水 稲		人	a	kg	円	円	円	円	円	円
			5,566	220,052	7,631,453	1,409,951,268	10,546,476	8,288,299	2,258,177		
麦 I 類	28年産		2	456	6,236	56,124	623	250	373		
	29年産		2	830	13,640	109,120	1,210	487	1,697		

## (被 害)

区分	項目	被害組合員数	共済減収量	共 済 金	共 済 金 共 済 金 額
	水 稲	人	kg	円	%
		184	48,750	8,980,338	0.64
	麦 I 類	0	0	0	0.00

## (支 払)

区分	項目	支払月日	実支払共済金	共 済 金 支 払 財 源				実支払共済金 共 済 金	
				保 険 金	手持掛金充当額	法定積立金額 充 当 額	特別積立金額 充 当 額		そ の 他
	水 稲	平成28年 12月22日	8,980,338	2,694,101	2,258,177	4,028,060	円 0	円 0	% 100.0
	麦 I 類		0	0	0	0	0	0	0.0

## (引受、被害及び損害防止の概況)

平成28年産水稻の引受面積は220,052aで、前年産対比で3,294aの減少となった。これは生産調整・農地転用等や就農者の高齢化、獣害被害過多に伴う耕作放棄地が増加したためと思われる。

28年産水稻の被害状況は例年と同じく、ほとんどが獣害で、中山間部において田植当初より鹿害が発生し減収となる圃場も見受けられた。猪害においては今年も多く過剰に増え続けるイノシシに収穫皆無に近い圃場も多数見受けられた。また軽微ではあるが平坦地域ではスクミリンゴガイ（通称ジャンボタニシ）の食害が発生し減収となる圃場も見受けられた。病害・風水害（台風・集中豪雨）については、一部の地域で被害が発生した。

損害防止については、農薬等引換券及び一斉防除・共同防除で対応し、適期防除に努めていただくため病虫害予察情報を組合員に提供した。更にイノシシ被害を未然に防ぐために電気柵無償貸出も行った。

平成29年産麦の引受面積は830aで前年産対比で374aの増加、引受戸数2戸となった。これは加入者は同じだが耕作放棄地の再利用等により麦の播種が増えた為である。平成28年産麦の被害状況については比較的穏やかな年であったため被害は発生しなかった。

(2) 家畜共済関係  
(引 受)

区分	項目	組 合 員 数	有資格 頭 数	事業計画 頭 数	(うち期首 引受分) 引受頭数	引受頭数 事業計画頭数	(うち期首引受分) 共済金額	徴 収 共 済 掛 金	連 合 会 納 入		交 付 金	手 持 共 済 掛 金	
									保 険 料	技 術 料		共 済 掛 金 (甲)	共 済 掛 金 (乙)
成 乳 牛	人 頭	8	1,170	1,200	(1,146) 1,253	% 104%	円 (335,251,800) 362,274,221	円 25,583,461	円 3,404,258	円 14,973,432	円 0	円 7,205,771	円 0
育 成 乳 牛	上欄に含む		40	30	(14) 25	83%	(2,484,600) 4,321,379	上欄に含む	上欄に含む	上欄に含む		上欄に含む	
乳 用 子 牛 等			10										
肥 育 用 成 牛		3	100	50	(31) 34	68%	(8,724,250) 9,334,750	219,283	64,501	86,263		68,519	
肥 育 用 子 牛			20										
その他の 肉用成牛													
その他の 肉用子牛等			-	-									
	うち胎児		-	-									
計	延 11 実 9		1,340	1,280	(1,191) 1,312	100.0%	(346,460,650) 375,930,350	25,802,744	3,468,759	15,059,695	0	7,274,290	0

(事 故)

区分	項目	死 廃 事 故				病 傷 事 故			
		被 害 組 合 員 数	死亡頭数	廃用頭数	総頭数	支払共済金	被 害 組 合 員 数	件 数	支払共済金
成 乳 牛	人 頭	7	52	48	100	円 30,288,776	人 9	件 906	円 14,580,780
育 成 乳 牛							2	5	20,960
肥 育 用 成 牛							3	9	96,940
計	延 7 実 7		52	48	100	30,288,776	延 14 実 10	920	14,698,680

(損 害 防 止)

実 施 種 目	対 象 頭 数 又 は 回 数	経 費 概 算	摘 要
一般損害防止 予 防 衛 生 措 置	頭 587	円 1,174,000	削蹄費用の一部助成

(引受及び事故発生状況)

引受戸数は、高齢化による廃業で1戸の減少となった。頭数についても廃業に加え、昨年に続き子牛や初産牛の価格高騰などの為、牛の入れ替えが進まず68頭の減少であった。事故の発生状況については、急激な気候変化に伴い死廃・病傷事故共に例年並みから増加傾向にあり、評価額の上昇により支払共済金が増加している。損害防止は、運動器疾患の未然防止並びに健全な牛体飼養による病傷事故の未然防止により事故低減を図ることを目的とした、削蹄費用の一部助成を実施している。

(3) 果樹共済関係  
(引 受)

年度	果樹共済区分		組合員数	引受面積	標準収穫量 又は 共済価額	共済金額	徴共 共済掛金 (A)	納入保険料 (B)	手持 共済掛金 (A)-(B)	
	再保険区分	果樹区分								
27 年度	かき (28年産)	I 類	4	a	kg 4,192	円 494,000	円 16,796			
		II 類	36		1,074	121,201	14,088,000			478,992
		合計	延 実	40 38		1,140	125,393			14,582,000
28 年度	かき (29年産)	I 類	2		43	2,657	237,000	6,873		
		II 類	33		988	101,497	10,064,000	291,856		
		合計	延 実	35 34		1,031	104,154	10,301,000		

(被 害)

	果樹共済 再保険区分		被害組合員数	認定減収量 又は 共済価額	共済金	共済金 —— 共済金額
	区 分	果樹区分				
27 年度	かき (28年産)	I 類	2	kg 790	円 16,020	% 3.2
		II 類	17	23,253	540,880	3.8
		合計	延 実	19 19		24,043

(支 払)

果樹共済再保険区分	果樹区分	支払月日	実支払共済金	共済金支払財源				実支払共済金 —— 共済金	
				保 険 金	手持掛金充当額	法定積立金充当額	特別積立金充当額		そ の 他
かき	I 類	平成29年 3月15日	円	円	円	円	円	円	%
	II 類								
	合計								

(引受、被害及び損害防止の概況)

引受については、後継者不足のなか高齢化が進み、生産規模の縮小や廃業が多くみられ、年々減少傾向となっている。

28年産の被害では、8月上旬以降の降雨が少なく、猛暑日が続いたことによる日焼け果や生育不良などの干害が広範囲で発生した。また、一部の地域で晩霜による凍霜害やアザミウマ等の虫害、猪による獣害も発生した。

損害防止については、日頃より病虫害発生予察情報や気象情報を提供している。

## (4) 畑作物共済関係

(引 受)

年 度	畑作物区分	項目	類 区 分	組 員 数	合 引 面 積	引 受 積	引 受 収 量 又は 基準生産金額	共 済 金 額	徴収共済掛金 (A)	納 入 保 険 料 (B)	手 共 済 掛 金 (A) - (B)	持 金 円	
													延 実
平成 27 年 度	大豆 27年産	-	-	1	a	439	kg(円) 4,698	円 512,838	円 9,231	円 7,179	円 2,052		
		1類											
	茶(半相殺) 28年産	2類			2		491	14,567	5,098,450				
		3類											
		4類			1		102	2,794	977,900				
		計			3								
	茶(災害収入) 28年産	-		7		2,379	32,001,871	25,597,000	426,193	331,484	94,709		
計			11										
				10		3,411	-	32,186,188	496,337	386,039	110,298		
平成 28 年 度	大豆 28年産	-	-	1		395	4,068	447,750	5,642	4,388	1,254		
		1類											
	茶(半相殺) 29年産	2類											
		3類											
		4類											
		計											
	茶(災害収入) 29年産	-		7		2,419	32,069,607	25,652,000	484,826	377,087	107,739		
計			8										
				8		2,814	-	26,099,750	490,468	381,475	108,993		

(被 害)

畑作物区分	項目	被 害 組 合 員	共済減収量 又は 共済減収金額	共 済 金	共済金
					共済金額
大豆 28年産		人	kg(円)	円	%
茶(半相殺) 28年産					
茶(災害収入) 28年産					
計		延 実			

(支 払)

畑作物区分	項目	支払月日	実支払 共済金	共 済 金 支 払 財 源					実支払共済金 共 済 金	
				保 険 金	手 掛 充 当	持 金 積 立 当 額	法 積 立 当 額	定 積 立 当 額		特 積 立 当 額
大豆			円	円	円	円	円	円	円	%
茶	半相殺	平成 年 月 日								
	災害収入									
計		-								

(引受、被害及び損害防止の概況)

大豆 引受については、水田経営所得安定対策に加入の南檜垣営農組合の引受があり、栽培面積は395 a となり44 a 減となった。被害については、7月上旬には順調に発芽しましたが9月中旬の長雨により土壌湿潤害が発生し、8筆の被害報告があり10月27日全筆実測し、1月5日に調整したところ3割以上減収の園地はなく、無被害となった。

茶 災害収入方式においては、戸数の増減はなく面積は40 a の増となった。半相殺方式においては、加入推進行ったものの加入はなかった。被害は、4月中旬に凍霜害があったが生育も回復し無被害となった。

損害防止については、地域ごとに温度計を設置し気象情報を提供した。又常に防除対策の注意を呼びかけた。

(5) 園芸施設共済関係  
(引 受)

施設区分	項目	組合員数	引 受 棟 数	設置面積	共 済 価 額	共済金額	徴収共済掛金 (A)	納入保険料 (B)	手持共済掛金 (A) - (B)
ガラス室 I 類									
ガラス室 II 類		3	5	37	29,699	23,758	43,478	34,781	8,697
プラスチックハウス I 類									
プラスチックハウス II 類		261	844	2,643	361,200	288,427	2,746,476	2,196,838	549,638
プラスチックハウス III 類		4	5	68	13,634	10,906	117,622	94,095	23,527
プラスチックハウス IV 類甲		1	1	9	3,634	2,907	17,025	13,620	3,405
プラスチックハウス IV 類乙									
プラスチックハウス V 類		26	139	225	25,124	20,048	417,606	334,032	83,574
プラスチックハウス VI 類									
計		延 295 実 239	994	2,982	433,291	346,046	3,342,207	2,673,366	668,841

(被 害)

施設区分	項目	被 害			損害の額	共 済 金				共済金 共済金額
		組合員数	棟数	付帯施設数		特定園芸施設	付帯施設	施設内農作物	合計	
プラスチックハウス II 類		人	棟	基	円	円	円	円	円	%
		9	10		564,515	451,114			451,114	0.1
計		延 9 実 9	10		564,515	451,114			451,114	0.1

撤去費用、本体復旧及び付帯復旧の共済金についてはありません

(支 払)

実支払共済金	共 済 金 支 払 財 源					実支払共済金 共 済 金
	保険金	手持掛金 充 当 額	法定積立金 充 当 額	特別積立金 充 当 額	そ の 他	
円	円	円	円	円	円	%
451,114	405,998	45,116				100.0

(引受、被害及び損害防止の概況)

引受については、農家の高齢化による規模縮小、後継者不足の為7戸29棟の減少となった。  
被害については、4月、1月、2月の突風による被害が10棟あった。  
損害防止については、粘着テープ・マイカー線を配布した。

(6) 任意共済関係

1 建物共済

(引 受)

区分	項目	加入棟数	共済金額	共済掛金		1棟当り 平均共済金額	備考
				純共済掛金	賦課金		
		棟	万円	円	円	万円	
総合共済		1,170	1,072,489	15,744,463	6,087,998	917	
火災共済		14,959	18,767,706	75,018,403	61,371,104	1,255	
計		16,129	19,840,195	90,762,866	67,459,102	1,230	

(事 故)

区分	項目	事故棟数	加入総共済金額	支払共済金	備考
		棟	万円	円	
総合共済		3	4,000	3,155,346	
火災共済		16	33,000	2,306,283	
計		19	37,000	5,461,629	

2 農機具共済

(引 受)

区分	項目	加入台数	共済金額	共済掛金		1台当り 平均共済金額	備考
				純共済掛金	賦課金		
		台	万円	円	円	万円	
農機具共済		223	56,446	2,442,366	571,384	253	

(事 故)

区分	項目	事故台数	加入総共済金額	支払共済金	備考
		台	万円	円	
農機具共済		25	7,693	4,418,525	

## (7) 業務関係

### ア、重要な処理事項

平成28年 4月18日	監事会（平成27年度下半期定期監査）
平成28年 4月22日	理事会（27年度決算・28年度予算）
平成28年 4月22日	余裕金運用管理委員会
平成28年 5月11日	第19回通常総代会（全議案を原案どおり可決承認）
平成28年 5月19日	理事会・監事会（正副組合長・代表監事互選）
平成28年 5月20日	損害評価会
平成28年 6月15日～ 平成28年 6月16日	各地区共済部長会議（水稲、かき掛金徴収及び損害評価計画等）
平成28年 7月20日	損害評価会（水稲・かき評価計画等）
平成28年 7月21日	理事会（水稲・かき評価計画等）
平成28年 7月21日	余裕金管理運用委員会
平成28年 7月27日	女性研修会
平成28年10月21日	監事会（平成28年度上半期定期監査）
平成28年10月28日	損害評価会（水稲組合当初評価高の検討）
平成28年10月31日	余裕金運用管理委員会
平成28年10月31日	理事会（平成28年度上半期業務報告・水稲組合当初評価高の検討）
平成29年12月 2日	損害評価会（かき 部会）
平成28年12月 8日	会計検査院 第4局農林水産検査第1課による会計実地検査
平成28年12月13日～ 平成28年12月20日	奈良県農林部農業経済課による常例検査
平成29年 1月17日～ 平成29年 1月26日	各地区共済部長会議
平成29年 1月16日	損害評価会
平成29年 1月19日	監事会（県常例検査結果、平成29年度監査計画等）
平成29年 1月19日	理事会（県常例検査回答書・各事業報告・建物加入推進等）
平成29年 1月19日	余裕金運用管理委員会
平成29年 3月 7日	損害評価会（家畜部会）



イ、組合員の増減

年度始組合員	年度末組合員	増 減 (△)	摘 要
人 9,613	人 8,359	人 △1,254	県下統一の積算方法に変更したため減少

ウ、役職員その他

(ア) 役職員数

平成29年4月1日 現在

役員数	理 事				監 事	合 計		
	常勤	人	非常勤	22人	計	22人	3人	25人
職 員 数	事項 性別	参 事	総務部	事 業 部			計	
			総務課	農作課	家畜果樹課	畑作園芸施設課		建物課
	男	1人	部長1人	部長1人			13人	
			課長1人	課長1人 (事業部長兼務)	課長1人	課長1人		課長1人
			課員1人 (建物課兼務)	課員1人				課員1人 (総務課兼務)
					課員1人			
			嘱託職員3人					
女		課員1人			課員1人	2人		
計	1人	4人	10人			15人		

(イ) 総代、共済部長、損害評価会委員、損害評価員

総 代	共済部長	損害評価会委員	損害評価員
人 151	人 285	人 37 (職員2名含む)	人 405